

立命館生協OIC 防災企画



[激甚災害支援
・防災]

取り組み概要

日時：1/12(水)
 場所：立命館生協OIC
 参加者数や組合員の反応：
 55人の組合員が参加。
 内、アンケートが51件集まった。

背景や概要：南海トラフ巨大地震が起きることが予想されている今、災害に対する知識を体験することで災害への対策の意識を高められるよう、体験型企画を開催した。

防災の大事さを感じるきっかけ作り

POINT.1

もしもに備えた災害対策



いつ巨大地震が起きてもおかしくない状況であるにもかかわらず、災害に対する知識・対策が不十分な組合員が多く存在する現状から、防災企画が開催されていました。

キャンパス周辺のハザードマップで避難場所への生き方を確認できるブースや、地震などに関するクイズのブースが設置され、実用的な知識を身に付けられる工夫がされていました。この企画を通して組合員が防災に関する意識を高めることができました。

POINT.2

体験することで「自分ごと」に

ブースの中にはAEDの使い方や心臓マッサージの方法などを実際に体験して学ぶことのできるものがありました。このブースは保健センターと協力して機械を借り、実施されていました。

ただ知識を伝えるだけでなく、身をもって体験してもらうことで、より具体的にイメージしてもらうことができました。実際にアンケートには「万が一の時にためになると思った」という声があり、自分にも起こり得ることとして捉えられていました。



POINT.3

災害で怪我した時を見据えて



この企画では地震に関するブースだけでなく、共済に関するブースも設置されていました。どんな時に給付が受けられるのかを、災害による怪我での給付事例を紹介して伝えていました。

災害を通じて起こり得るリスクから、共済についても知ってもらう場に繋げることができていました。事前に防ぐという観点だけでなく、万が一が起きてしまった後の行動にもアプローチができている取り組みとなっていました。